

■自己評価結果公表シート（令和4年度）

1、園の保育目標

- ① よく考え、よくみつめる
- ② よく食べ、よく遊び、健康に過ごす
- ③ 友達と元気に仲良く遊ぶ

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した 学校評価の具体的な目標や計画

1. 保育者育成
2. 子どもに合わせた保育環境の充実
3. 全体的な計画、年間カリキュラム、食育、保健計画を改訂し、保育の質を上げる
4. 園の保育理念への保護者の理解

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1. 保育者育成 保育マニュアルなど改訂し、共通理解を図り、一年目の保育者の個性に合わせてサポートする。	保育マニュアルでは、一年目にも理解ができるように、離乳食の進め方、着替え、排泄など、生活習慣の一つひとつの流れを記載し、全員で共通理解を図り、ずれがないか確認した。読み返しながら取り組む姿も見られ、活用できていた。今後も毎年確認をして、子どもが安心して生活できるようにしたい。新任指導に関しては、難しく感じる保育者もいたが、それぞれの立場から見守りサポートしていた。
2. 子どもに合わせた保育環境の充実 子どもの興味や育ちに合わせて、保育環境を見直し、教材を充実させる。	園内研修で講師に助言をもらい、子どもの特性によって環境を工夫するなど、新たな視点で遊びに向き合えた。しかし、遊びを発展させる玩具を充実させることが難しく、次年度は年度途中にも環境を見直し、その年の子どもに必要な玩具や環境を整えたい。
3. 全体的な計画、年間カリキュラム、食育、保健計画を改訂し、保育の質を上げる 改めて園の方針や目標に基づいて、乳児、1歳以上児、3歳未満児、3歳以上児の発達過程に分けて作成し、保育内容を見直す。	今年度、様々な計画が細かい部分まで見直され、より良い保育計画書ができた。また、生活習慣の「3月までに育てほしい姿」も明確にしたことで、月案や話し合いの参考にできた。また、2歳児クラスでは、グループ分けを低月齢と高月齢に分けることで、より子どものペースに合わせて身の回りの援助や遊びの発展につなげた。

<p>4. 園の保育理念への保護者の理解 ドキュメンテーションやクラスだよりなどで、5領域から見られる育ちを伝え、より深い保育内容の可視化に努める。また、保護者の保育に対する理解を深める。</p>	<p>5領域を踏まえて、ドキュメンテーションを作ることに難しさや不安を感じていたが、始めてみると、自身の保育の学びや気づきにつながった。 今後も保育指針を学ぶことが必要だと感じる。 また、12月の学級懇談会で5領域を含めた保育内容を発信することで、保護者の保育理解につなげた。</p>
--	--

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>4年ぶりに新任が入り、この機会に保育マニュアルや年間指導計画、食育計画などを改訂した。保育マニュアルは、より細かく記載し、年度初めに職員、パート含めて再確認することで、生活習慣の介助方法や流れのずれも解消できた。</p> <p>また、3年度に引き続き、ドキュメンテーションやクラスだよりを配信し、保護者の保育理解に努めた。特に「5領域から見る育ち」と「保育の中で大切にしていること」を学級懇談会で直接保護者に伝えたことは大きく、今後に繋がられるものとなった。</p>
--

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1年目保育者の育成	日々の保育の振り返りを丁寧に行い、対話を大切にしながらサポートする。
乳児、1歳児以上3歳未満児、3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容を意識した保育環境・内容の充実	保育指針を基に、発達過程に応じた年間指導計画を作成し、保育環境・内容の充実に努める。
担任とフリーが共に養護の行き届いた環境をつくりあげる	担任とフリー保育者が保育理念を基に、対話を大切にしながら、様々な家庭の事情がある子ども達に寄り添い一人ひとりの自尊心を大切に接する。
園の保育理念への保護者の理解	引き続き5領域から見られる育ちを伝え、保育の可視化に努める。